



ならっ子だより



私たちの奈良にはたくさんの世界遺産があるけど、よく見てみると、どの遺産もたくさんの花に彩られているよ。

そんな世界遺産を彩る花のひとつ、蓮の花について調べてみよう。



世界遺産を彩る夏の花

世界遺産に登録されている東大寺の大仏は蓮華座と呼ばれる大きな蓮の花の上に座っています。また、同じく世界遺産の唐招提寺には、鑑真和上が中国からもってきた種を植えたと言われていて、青蓮が咲いています。

このように蓮は仏教の世界でも大切にされてきました。

泥に染まることなくきれいな花を咲かせる様子が、汚れに染まらずまっすぐに悟りを開く姿に例えられるからです。

蓮は池や沼で育つ水生植物で、花を見て楽しむための観賞用と、土の中の茎の部分（蓮根）を食べる食用とがあります。どちらも6月下旬～8月に、水面上に伸びた花柄の先に白色や桃色の花を咲かせます。

蓮の種はとても皮が厚く、長い間発芽能力をもっています。中には実がなって千年以上たってから発芽した、古代蓮と呼ばれるものもあります。

唐招提寺や春日大社の萬葉植物園にある大賀蓮は、千葉市の落合遺跡で発掘された種から発芽、開花したもので、約二千年前の蓮であると考えられています。

蓮の葉はとてもよく水をはじきます。雨が蓮の葉の上に落ちてても丸い玉の形になり、ころころと転がり落ちて蓮の葉がぬれることはありません。水玉が落ちるとき、葉に付いた汚れも一緒に落ちるので、泥の多い池に生えているのに、葉には汚れが付きません。

この現象は、セルフクリーニングといわれ、建物の屋根や壁などに汚れを付けられない最新技術に応用されています。

長い年月を生き抜き、きれいな花を咲かせ続ける一方、その能力が最新の技術に応用されている蓮。古くて新しいこの不思議な植物に、ぜひ一度注目してみてください。



蓮はす

写真提供：市観光協会

守ろう、地域の子どもたち 毎月17日は「子ども安全の日」です。



子どもたちは、今日も地域の皆さんや安全推進委員の方々、温かく見守られ、支援を受けながら、笑顔あふれる鳥見つ子をめざしています。

「ハロー」、世界に目を向ける国際人を育てるため、英語活動などを通して国際理解教育を行っています。また、社会体育も盛んで、サッカー、ラグビー、少年野球、バスケット、空手、少林寺、マーチングなどのチームがあります。放課後や休日には、保護者や地域の方で組織された「鳥見あそび隊」により、ゲートボールや手芸、料理教室やわくわくフェスタなどの体験活動も行っています。

学校紹介

鳥見小学校の巻

鳥見小学校は、市の西の端に位置し、昭和41年に開校し、46年目を迎えました。教育目標に「いきいき わくわく 心ときめく 学校の中で、笑顔あふれる鳥見つ子をめざす」を掲げ、「何事にも真剣に取り組み姿にこそ、笑顔が生まれる」と信じ、子どもたちと先生が共に創り上げていく学校です。幼稚園児と小学生が一緒に学ぶなかで、8年間を見通した教育を進めています。

